



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修終了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



犬のレプトスピラ症のアウトブレイクに関連した人間の症例

米国ワイオミング州にて犬のレプトスピラ症のアウトブレイクが発生しているときに、人間での症例が報告された。CDCが週報(MMWR)で詳細を報告しているので紹介する(1)。

はじめに

2023年8月、ワイオミング州保健局(WDH:Wyoming Department of Health)は、1983年以降、同州で初めてのレプトスピラ症の人間での症例の報告を受けた。レプトスピラ症は湿潤で温暖な地域で一般的であり、ワイオミング州は乾燥し降雨量の少ない気候のため、リスクの低い場所と考えられている。

レプトスピラ症

- レプトスピラ症〔註釈1〕は、発熱、悪寒、筋肉痛、吐き気、嘔吐、下痢、頭痛、ふくらはぎの痛み、結膜充血（炎症性滲出液のない発赤）を特徴とする急性の人獣共通細菌性疾患である。
- 潜伏期間は通常5～14日で、人間の場合、90%の症例は無症状または軽度で自然に治癒する。しかし、重症化すると多臓器不全や死亡に至ることがある。
- 重症化に関連する要因には「高レベルのレプトスピラ血症」「抗菌薬治療の遅延」「*Leptospira interrogans serogroup Icterohaemorrhagiae*の感染」「慢性高血圧」「慢性アルコール依存症」「60歳以上の年齢」などがある。
- 軽症の場合は経口抗菌薬が治療の選択肢となるが、重症例では入院して抗菌薬を静脈内投与し、積極的な支持療法が必要なことがある。

症例

- 患者は、体痛、発熱、吐き気、発汗などの初期症状を報告した。2日後、一時的に意識を失った後、病院の救急科で血管迷走神経性失神に対するアトロピンと点滴による治療を受け、退院した。
- その後の2日間で病状は悪化し、ふくらはぎの痛み、息切れ、咳、頭痛、結膜充血、下肢浮腫、意識朦朧、ブレイン・フォグ (brain fog)〔註釈2〕などの症状が見られた。
- 患者には、たまり水や泥など一般的なリスク要因への曝露や、旅行、狩猟、アドベンチャースポーツなどの活動への参加はなかった。唯一のリスク要因は、職業上、犬に曝露することであった。
- 発症5日目にかかりつけの医療提供者に経過観察を求め、胸水、低酸素症、急性腎障害の症状で6日目に再入院した。
- 患者は職業上、複数の犬の体液に曝露しており、うち3匹は原因不明で死んでいた。
- レプトスピラ症に一致する症状を経験し、職業上のリスクを複数の医療提供者に伝えていたにもかかわらず、患者は発症8日目まで検査を受けていなかった。8日目の時点でレプトスピラ属に対する免疫グロブリンM抗体が検出された。
- 発症11日目に経口ドキシサイクリン (100mg、1日2回、7日間)による治療を開始し、1日後に退院できるほどに回復した。

犬のレプトスピラ症の増加に関する報告

- 患者の発症当日、地元の獣医クリニックは3匹の犬にレプトスピラ症の診断を下していた。
- ワイオミング州では犬のレプトスピラ症の診断は稀であり、州内で報告義務のある病気ではない。しかし、獣医はこれらの症例が罹患率の増加を示していることを懸念し、州動物衛生局 (SAHO: State Animal Health Official) に報告した。
- 州動物衛生局は州全体の獣医クリニックに犬のレプトスピラ症の症例を自主的に報告するよう要請し、2023年8月から10月の間に合計13匹が報告された。
- 獣医の記録と獣医クリニックのスタッフへのインタビューによると、病気の犬は嘔吐、無気力、食欲減退などの非特異的な症状を示していた。
- 病気の犬はすべて高窒素血症（腎障害に起因する血中尿素窒素と血清クレアチニンのレベルの上昇）を呈し、4匹は安楽死または重度の病気で死んだ。
- 獣医の記録によると、犬の症例は患者が働いていた市内全域に地理的に分散していた。
- 8月から9月にかけて、感染した犬5匹は疫学的に同じペットホテルと関連していた。さらに1匹の犬は、溜まった水を飲んで感染した可能性がある。
- 7匹の犬は、リスクの高い活動や場所との関連がなかった。しかし、湿った環境はレプトスピラの環境持続性を高める可能性があり、感染地域はアウトブレイク前の3か月間に平均降水量のほぼ2倍を記録したことから、犬は一般的な環境で感染した可能性があることが示唆される。

制御活動

- ワイオミング州保健局は、地元の医療提供者にこのアウトブレイクについて警告し、発熱、悪寒、筋肉痛、吐き気、嘔吐、下痢、頭痛、ふくらはぎの痛み、結膜滲出液などの臨床的に一致する症状のある人を速やかに検査するよう促した。州動物衛生局は動物病院とペットホテルに通知した。
- ワイオミング州保健局と州動物衛生局はまた、疫学的に関連するペットホテルを検査し、ワクチン接種方針、検査手順、清掃および消毒プロトコルを評価した。この施設では、預けられた犬に複数の病気のワクチン接種を義務付けていたが、レプトスピラ症のワクチン接種は義務付けていなかった。
- 病気の伝播を防ぐための推奨事項が提供され、これには「すべての犬にレプトスピラ症のワクチン接種を義務付ける」「溜まった水を排除する」「適切な清掃および消毒プロトコルに従う」「病気の犬を隔離する」「個人保護具を適切に着用する」が含まれる。

考察

- レプトスピラ症は温帯や熱帯気候でよく見られるが、環境条件があまり良くない地域でも発生している。最近の犬でのアウトブレイクはカリフォルニア州やアリゾナ州を含む米国の乾燥地域や半乾燥地域で報告されている。
- 米国では、レプトスピラ症を予防するための犬用および牛用のワクチンは入手可能であるが、人間用のワクチンはない。
- 犬の最初のワクチン接種には、2〜4週間の間隔をあけて2回接種する必要がある、免疫を維持するために毎年の追加接種が必要である。
- 歴史的に、ワクチン接種は、地理的な場所や感染した動物の尿にさらされる可能性のある活動への参加に基づいて、感染リスクが高いと見なされる犬にのみ推奨されていた。
- 犬の曝露リスクを高めると考えられているライフスタイルの要因には、家畜や野生動物との接触、犬舎環境で過ごす時間、農地の散歩、狩猟、ハイキング、水泳など、たまった水や泥にさらされる活動への参加などがある。
- 病気の重篤性と人獣共通感染の可能性から、獣医コミュニティのコンセンサスはすべての犬にワクチン接種を推奨する方向に移行しており、このアウトブレイクが終息した直後に、ライフスタイルや地理的な場所に関係なく、すべての犬にレプトスピラ症のワクチン接種を推奨する改訂ガイドラインが発表された。
- 医療提供者は、臨床的に適合する疾患の患者を評価する際に鑑別診断でレプトスピラ症を考慮し、歴史的にリスクが低い地域であっても、動物への職業上の曝露について質問する必要がある。
- 早期治療により疾患の重症度と期間を軽減できるため、診断検査の結果が保留中であっても、疾患が疑われる場合は抗菌薬療法の開始が推奨される。

[文献]

1. Waranius B. et al. Human Case of Leptospirosis During a Canine Disease Outbreak — Wyoming, 2023
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/73/wr/pdfs/mm7327a1-H.pdf>

[註釈1] レプトスピラ症は感染症法の第4類感染症であり、直ちに届けなければならない。

[註釈2] brain fog: 意識混濁と訳され、通常よりも覚醒又は認知のレベルが低下することを示す。

株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.
© 2024 BD. All rights reserved.

